

# 作品番号001-1



②階段上で遊ぶクライアント一家

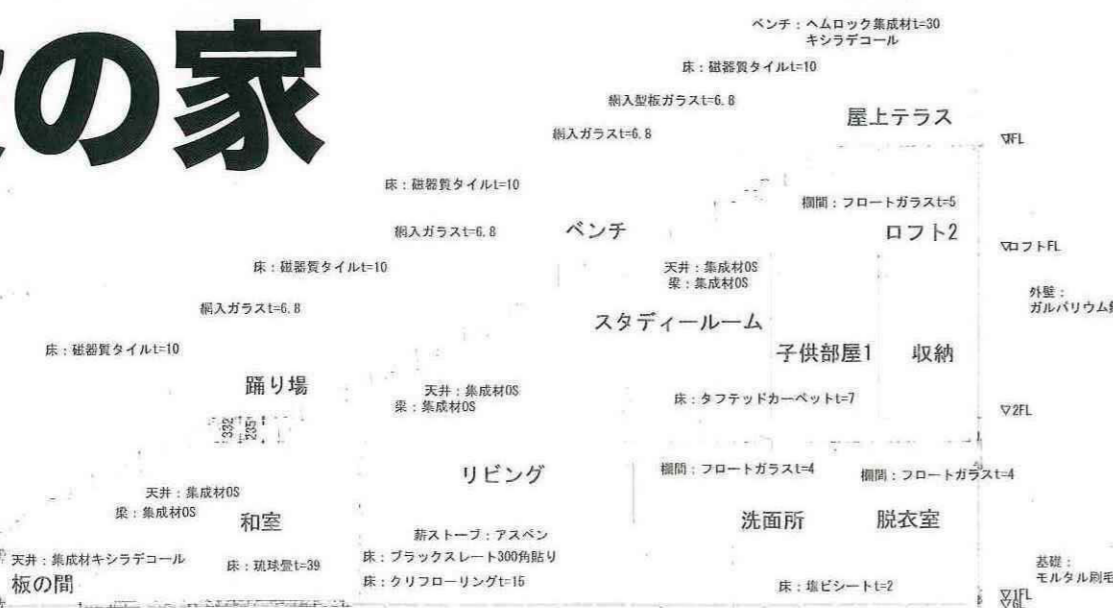


③外観真横

①外観全景

# 階段の家

所在地：[REDACTED]  
 主要用途：専用住宅  
 家族構成：夫婦 + 子供2人  
 構造構法：木造在来軸組構法  
 規模：地上2階 + ロフト  
 敷地面積：417.80㎡  
 建築面積：98.22㎡  
 延床面積：142.66㎡



④階段の家と南面に広がる運動場



⑤嵌込ガラスから室内の温かい光が溢れる



# 作品番号001-2



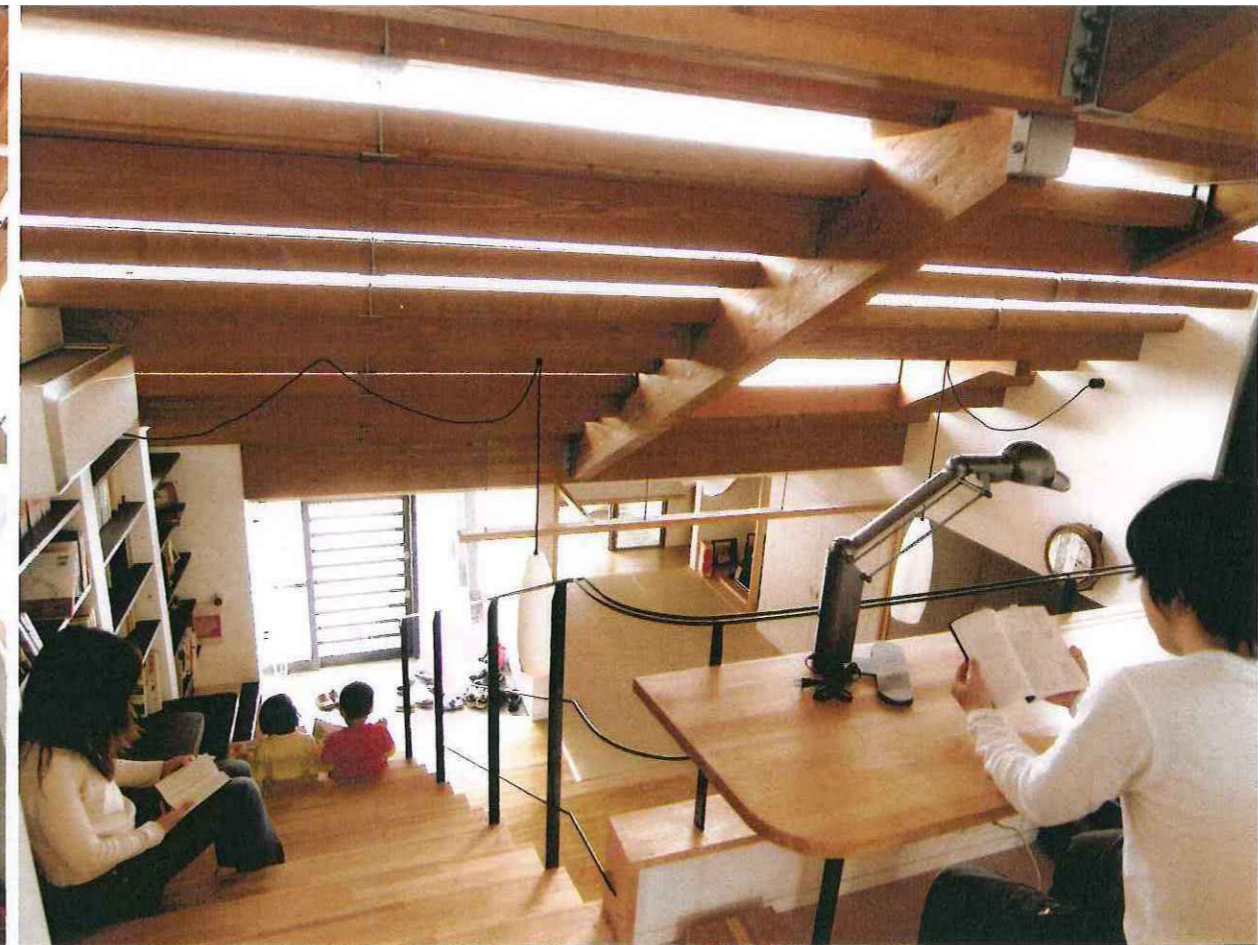
⑨玄関から2階スタディールーム見上げ（室内階段でくつろぐクライアント）



⑩木漏れ日のような太陽光が蹴込ガラスから降り注ぐ



⑪子供室（ロフト上部開口とセンサー付き換気扇から暖気を排出）



⑫2階から1階見下ろし（蹴込ガラスから降り注ぐ太陽光）

## 【設計趣旨】

教師の夫婦と双子の子供という4人家族が住む住宅である。

クライアントの要望は以下3点。

1. 人（教える）が集まる家になりたい
2. 暖かく明るい家に住みたい
3. プライバシーを守りたい

計画敷地は日本海に程近く、冬季はガラスが白くなる程の海風が吹き、日照時間が短く冷え込みも厳しい。敷地の南面には、幅員3Mの前面道路。その向かいには高さ4M程度の運動場の土手が広がり、西面からは、強烈な西日と潮風が吹く。北面は、集落の生活通路に面し、東面は、境界に接して2階建住宅が建っている。

上記クライアント要望と計画敷地周辺環境の条件を建築スケールで回答するために、「階段」の家を計画した。まず、冬季の日照を居住スペースの奥まで充分に取り入れることができるように南面上方に向かって蹴込部にスリット状の開口を設け、室内での開放感とプライバシーの確保を両立させている。（ダイヤグラム2）

また、階段形状によりパブリックスペース（道路、運動場の土手や近隣）から視界が空に抜け、圧迫感を与えないように配慮している。（ダイヤグラム1）（写真①、③）

階段状の屋根は、人が上がることで損傷による経年劣化を考慮し、磁器質タイルを採用することで、ほぼメンテナンスフリーとしている。（写真②）

<現代の縁側> 空間構成としては、パブリックスペースからプライベートスペースへと緩やかに連続する。（ダイヤグラム2）

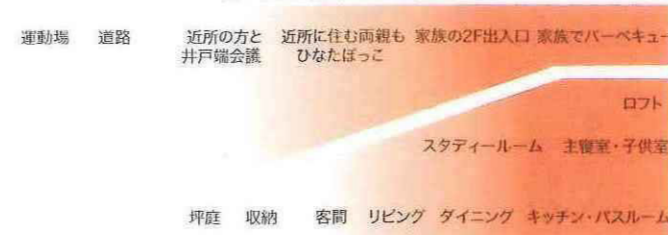
外部は運動場という非常にパブリックな空間から、屋上階段テラスというパブリックな中間領域へとつながり、（写真①～④）内部は南側に玄関・和室・リビングというプライベートな中間領域、北側は個室という完全なプライベートスペースとなっている。（写真⑨）

蹴込部の開口はプライバシー確保を考慮し、外部からは室内が見えにくく、且つ、室内からは外部を感じることができるよう配置した。（写真①、⑧、⑩、⑫）

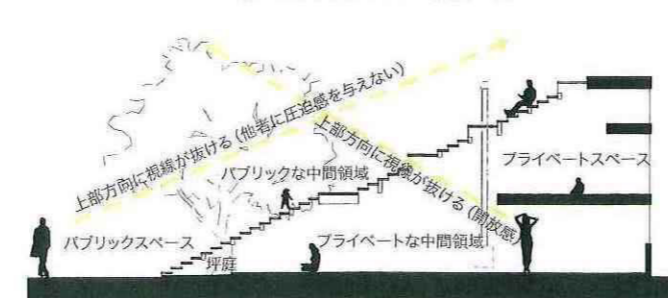
この階段状のインターフェイスにより、2件隣りに住むご両親やご近所とつかず離れずの絶妙な距離感を保っている。クライアント家族だけでなく、近所の方々、子供の友達、夫婦の教え子達にとって、井戸端会議やバーベキューができる場であるのはもちろん、友達の知り合いなど、家族が直接知らない人も気軽に集まることのできる場となる。家族を含む周辺の方々にとって、新しい「場」であると同時に、ライフスタイルの幅を広げ、さらには友達や知り合いの輪を広げ、その絆を強めることにつながっている。

つまり、この屋上階段というインターフェイスは、昔ながらの民家にある、いわば「縁側」の役割を持っている。

弱→外部のプライバシー強度→強



弱→内部のプライバシー強度→強



<室内環境> 地球温暖化に代表される環境問題に対する認識が高まる中、近年の住宅では、室内の快適さを求める生活の大部分を電気設備に頼っている。エアコン等の電気設備の一部は、もはや生活にならざるものとなっていることは事実だが、それらをできるだけ使用することなく、かつ快適に過ごすことができる空間（住宅）を創ることが必要だと考えた。

1年を通して、落葉樹や蹴込部の開口は室内の温度と光を調節し、木製の天井（階段裏）は湿度を調整する。（ダイヤグラム3）

夏は、高度の高い太陽光を遮り、踏板に反射した柔らかい間接光を室内に取り入れる。また、南面下部の開口から坪庭を通して涼しい空気を取り入れ、室内で暖められた空気を温度差による空気の流れを利用して、北側ロフト上部の開口とセンサー付き換気扇から排出する。（写真⑨～⑪）

冬は、落葉樹の葉は落ち、高度の低い太陽光を蹴込部の開口から居住スペースの奥まで取り入れることで、太陽熱により室内を暖め、床暖房と薪ストーブによる放射熱で家全体を暖める。（写真⑨～⑫）

蹴込部の開口からこぼれる太陽光は、さながら木漏れ日のような温かさを感じることができる。（写真⑩、⑫）この階段の家では、エアコンは4台設置可能だが、竣工後約1年経過するも1台しか設置していない。夏にエアコンを1台稼働させ（2～3回のみ）、冬は薪ストーブと床暖房を使用し、エアコンは稼働していない。

冒頭にあるような厳しい周辺環境の中で、日本の気候に適応した新しいインターフェイスを持つ住宅である。



ダイヤグラム3-1（夏の気候）

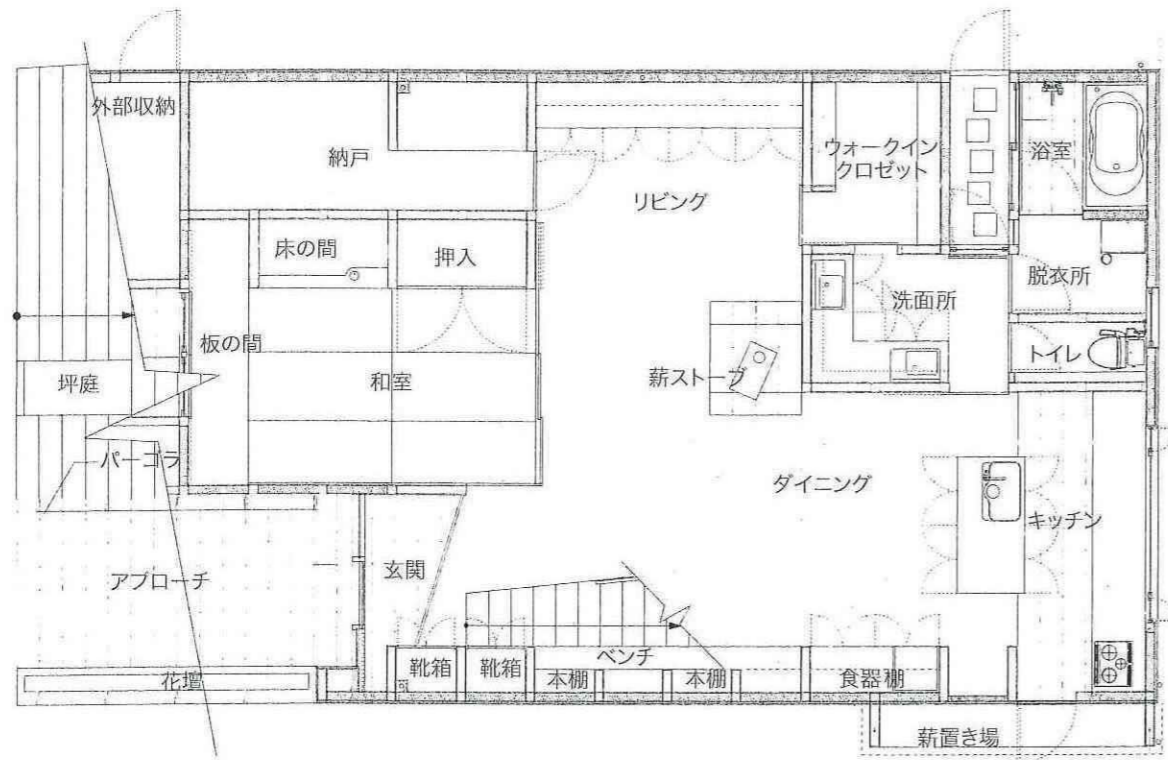


近隣や道路に圧迫感を与えない

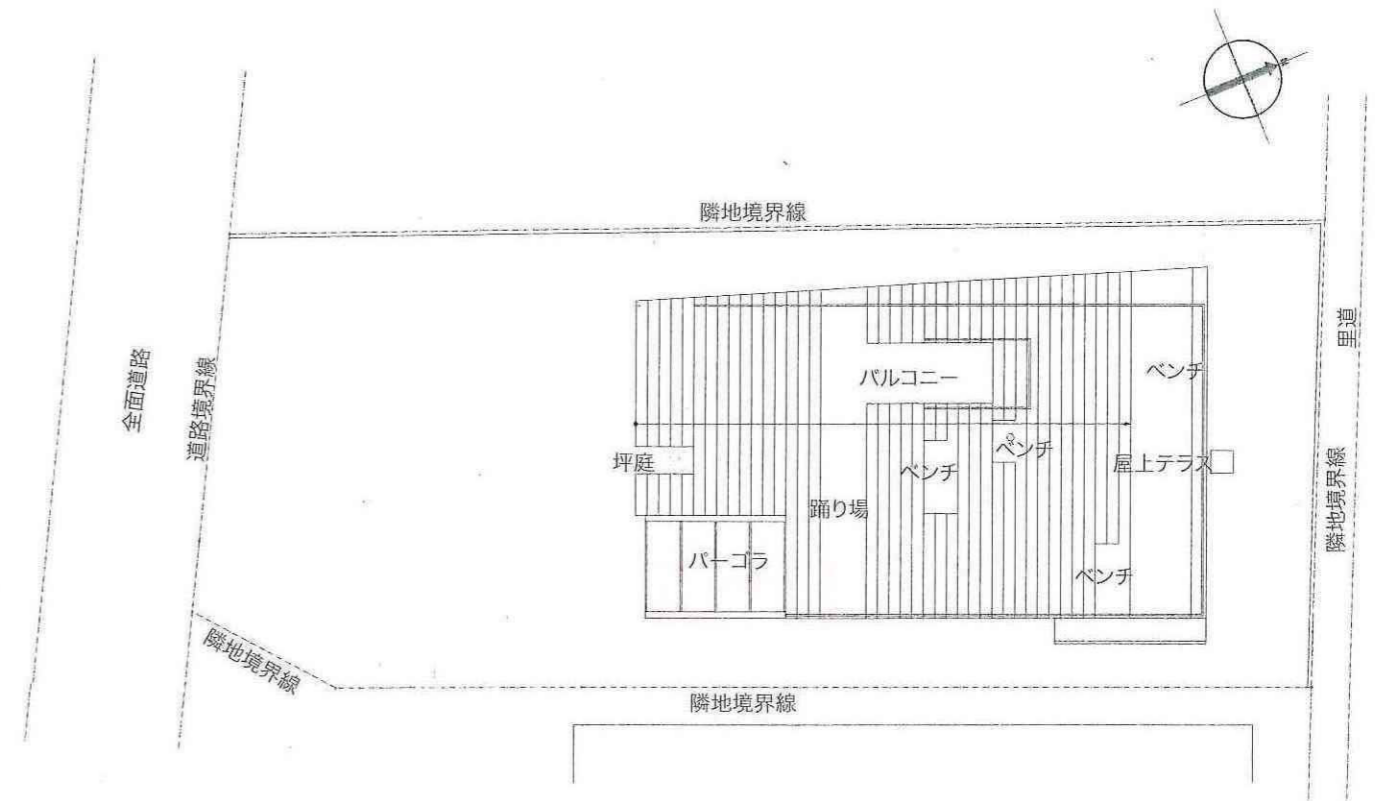


階段形状のため、視界が抜ける

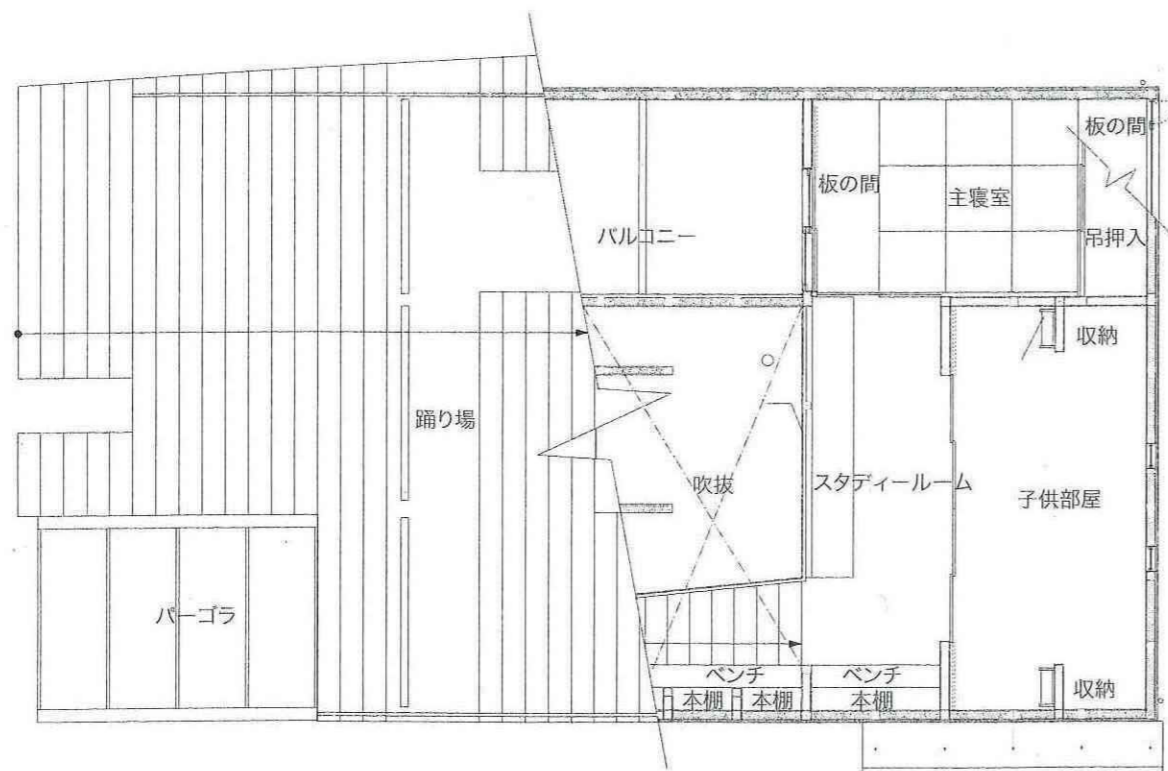
# 作品番号001-3



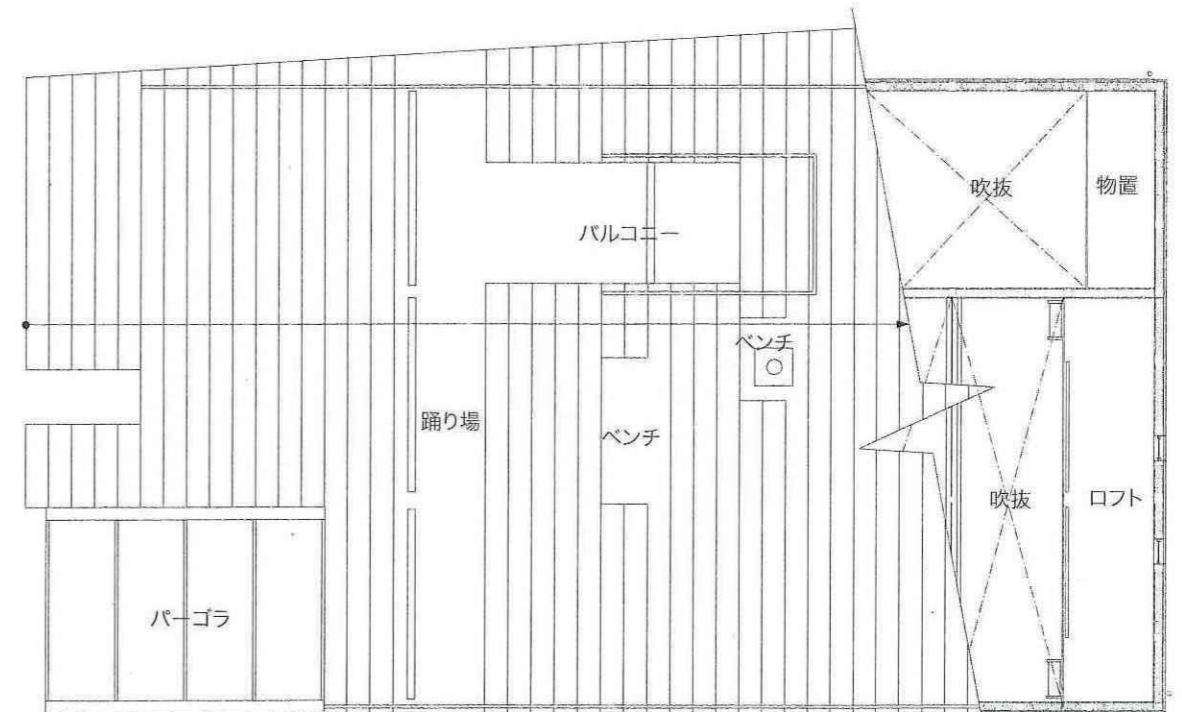
1F平面図 (S=1:100)



配置図兼RF平面図 (S=1:200)



2F平面図 (S=1:100)



ロフトF平面図 (S=1:100)